

特定非営利活動法人 川越きもの散歩

事業名	コロナ時代の地域観光を考える～川越・前橋・横浜 絹の道 WEB サイト作り	
枠の種類	(1) 一般枠	(2) ネーミング事業
① 事業の目的	コロナ以前は年間700万人の観光客、外国人も多く訪れる観光地だった川越。コロナウィルス感染防止による自粛で観光客減少の影響を強く受けている。「遠くから、たくさんの人に来てもらう」観光とはちがうアプローチが必要。まずは市民「近くのみじかな人」、そして「共通の関心をもつ顔の見える人」が地域観光の担い手になることを提案したい。川越市は「川越きもの日」を制定しており、当会もそれに協力してきた。「絹文化ゆかり」という共通のテーマをもつ前橋・川越・横浜の市民団体が顔の見える交流をすることで、市民が互いの町に興味をもち、交流人口を増やしまちづくりや地域活性化に寄与することを目的とする。通常であれば一堂に会するフォーラムを開催するところであるが、コロナのワクチンが未開発の今年度は、県境を越えた3市の絹・織物ゆかりの市民団体・史跡・観光施設を紹介するWEBサイト作り（英文併記）とそのサイトを知ってもらうためのミニパンフレット作りを行う。次年度にはリアルで交流するフォーラムを川越で開催する。ロンドンのヴィクトリア・アルバートミュージアムの「きもの展」にも協力し、英文メディアに定期寄稿をするシーラクリフ十文字学園女子大学教授が英文コラムを担当することで、海外や新しい層への発信力も高める。	
② 地域の課題と現状	コロナ以降、観光客に依存しすぎないまちづくりが課題となっている。3市の市民団体が連携することで市民主体の交流観光に寄与できるのではないかと。県境を越える3市が「絹文化つながり」があることは、殆ど知られていない。 例) ①川越のシンボル「時の鐘」は、横浜の生糸商人から多額の寄付を受けて再建された。 ②幕末に前橋に国替えになった川越藩は、前橋に日本で初めての器械製糸所を設立。その担当者は川越生まれで最後の富岡製糸場所長になり、横浜で日本初の生糸直輸出会社を作った。子孫が本を執筆中。 ③ 川越の蔵造りの建物は、幕末に横浜で英国製紡績糸を入手した織物商が建てたものが多い。現在の川越の観光はこの蔵造りの街並みに負うところが大きい。 これら3市の絹つながりを俯瞰でき、楽しく地域交流を促すWEBサイトは存在しない。市民に見慣れた町の景色が多様な歴史・可能性をもつことを提示し、郷土への関心と愛着を育むきっかけ作りとしたい。	
③ 事業の対象	A:市民 B:行政(川越市) C:協力団体(さいたま絹文化研究会・シルクロードネットワーク前橋・横浜)	
④ 事業内容	絹文化ゆかりの3市を紹介するWEBサイト・ミニパンフレット作り	対象
具体的な内容	川越・前橋・横浜の絹にまつわる団体・史跡・観光施設の調査	A・B・C
	川越・前橋・横浜の絹にまつわる場所、団体をクリフ教授と訪問	A・B・C
	取材をふまえてWEBサイト用の原稿作成	A・B・C
	クリフ教授によるコラム執筆依頼(英文)と個人SNSでの発信	A・B・C
	WEBサイトを紹介するミニパンフレットの製作・発送・配布	A・B・C
	WEBサイト及びSNSの公開と維持管理・リンク依頼	B・C
	来年のフォーラムへのアンケート(内容・参加希望)	A・B・C
⑤ 事業の実施により達成し	① コロナ共存時代の地域観光は、共通のテーマをもつ市民交流がベースになることへの理解を深めたい。絹文化つながりを周知する。	

たい成果	② クリフ教授による英文コラム発信により、海外、新しい関心層の掘り起こし	A・B・C																														
	③ 行政との連携を深め、来年度のフォーラムにつなげる。	A・B・C																														
⑤ ⑤の測定方法	WEBサイトでリンクした団体及び協力団体会員へのヒヤリングとアンケート	A・C																														
	SNSでのアンケート	A・C																														
⑦事業がどのように課題解決につながるか	① 顔の見えない観光客に過度に依存しない、コロナ共生時代のゆるやかな人の動きによる互いのまちの活性化。	A・B・C																														
	② 市民が3市の絹文化つながりをWEBサイトにて知ること、地域の歴史や先人の活動への理解と郷土愛を育む。																															
	③ クリフ教授による英文コラムがあることで、海外へ日本の情報を正しく発信できる	A・B・C																														
⑧事業計画	<table><tr><th>月</th><th>事業計画</th><th>広報計画</th></tr><tr><td>6</td><td>事業団体・委託との連絡・助成金必要書類の準備</td><td>企画内容打ち合わせ</td></tr><tr><td>7</td><td>関係団体・講師との打ち合わせ</td><td>NPO・協力団体のFBなどで進行報告</td></tr><tr><td>8</td><td>WEB 委託業者との打ち合わせ</td><td>NPO・協力団体のFBなどで進行報告</td></tr><tr><td>9</td><td>取材/調査</td><td>NPO・協力団体のFBなどで進行報告</td></tr><tr><td>10</td><td>原稿作成 WEB 委託業者との打ち合わせ</td><td>NPO・協力団体のFBなどで進行報告</td></tr><tr><td>11</td><td>WEB 公開・ミニパンフレット発行</td><td>3 都市観光施設にミニパンフ発送 クリフ教授と川越記者クラブ会見</td></tr><tr><td>12</td><td>WEB・ミニパンフレット周知活動</td><td>NPO・協力団体のFBなどで周知</td></tr><tr><td>1</td><td>事業結果とりまとめ・ヒヤリング</td><td>関係団体に告知</td></tr><tr><td>2</td><td>事業結果とりまとめ</td><td>関係団体に告知</td></tr></table>	月	事業計画	広報計画	6	事業団体・委託との連絡・助成金必要書類の準備	企画内容打ち合わせ	7	関係団体・講師との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告	8	WEB 委託業者との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告	9	取材/調査	NPO・協力団体のFBなどで進行報告	10	原稿作成 WEB 委託業者との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告	11	WEB 公開・ミニパンフレット発行	3 都市観光施設にミニパンフ発送 クリフ教授と川越記者クラブ会見	12	WEB・ミニパンフレット周知活動	NPO・協力団体のFBなどで周知	1	事業結果とりまとめ・ヒヤリング	関係団体に告知	2	事業結果とりまとめ	関係団体に告知	
	月	事業計画	広報計画																													
	6	事業団体・委託との連絡・助成金必要書類の準備	企画内容打ち合わせ																													
	7	関係団体・講師との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告																													
	8	WEB 委託業者との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告																													
	9	取材/調査	NPO・協力団体のFBなどで進行報告																													
	10	原稿作成 WEB 委託業者との打ち合わせ	NPO・協力団体のFBなどで進行報告																													
	11	WEB 公開・ミニパンフレット発行	3 都市観光施設にミニパンフ発送 クリフ教授と川越記者クラブ会見																													
	12	WEB・ミニパンフレット周知活動	NPO・協力団体のFBなどで周知																													
	1	事業結果とりまとめ・ヒヤリング	関係団体に告知																													
	2	事業結果とりまとめ	関係団体に告知																													
	⑨連携先	川越市観光課飯野課長 さいたま絹文化研究会（川越氷川神社・佐藤） NPO 法人街・建築・文化集団（前橋）担当中村 ・横浜歴史資産調査会（担当米山）																														
	⑩役割分担・連携体制	別紙参照																														
⑪補助終了後の継続	・来年度に川越にて前橋・川越・横浜の団体を招き、フォーラムを開催する ・前橋・川越・横浜にてWEBで紹介した絹文化史跡を巡る「きもの散歩」を開催し、それぞれの団体に案内をしてもらい交流する。 ・WEBに併設したSNSにて情報提供を継続していく																															